





梅原赤見は天南星といふ星乃事なり  
とつり又一説は文皇帝の御孫に天竺  
より仙人の指し置給ふとありて政長  
賢徳なるもの星と稱ふは何れとて  
御とすけ御となすは御徳受といふ  
おろしに増麻を由いふ百のつら  
又百の麻とゆふ御は富貴の印人王の成  
文子月の朔日にさすれば富貴とゆふを天  
南星にさすは御事を稱ふやうきま  
ま家裏さうさうとつり信候といふれ  
かいらえ信んといふはまゝとてむら  
しりあるすもの七梅くまんなんぞ  
うかいたあらん

飯米買やんや 曰大慶米のり 小麦お不買や 大豆お不買や 味噌あしや 塩のしひや 漬物乃次身 せんじ菜 ごりい	薪くふ時を 曰くらや 万代物焼や 弟さこのお 精進菜のり 又味噌乃次身 香物乃次身 合焼や そまめ	かき回さく 清家乃次身 世帯し 魚あし 曰家を買や 曰刻乃次身 なせ けり うら
--	---	--



立身大福帳卷之六  
始末乃年

高とてなんは海と通てを飲や  
 せのばく海と通て八極たさ  
 高を備す事ハガハは色ハ  
 燈をとうとあつひは口は  
 の燈事よあはすまじ  
 くあてまのるあを  
 ね徳なる事と  
 よりて



足はけり梅豆も色むび

▲塩味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>

み仕えだらうやむ其のま  
塩を煮つらふはう二番を三  
つうまぜぬはうの中あり  
二番と中分まぜにけり  
はふなり上ハト中セト下ハ  
分としてうりやハトや  
はむ有利すなり中ヌ  
すう利わたりりハト  
利あり

みそハそハけんけい町大和やとんや

味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub> 味<sub>シホ</sub> 味<sub>アジ</sub>



△玄水味嚼

大豆一升

糠一升 餅一升 粕一升

薯蕷粉一升 塩一升

ちのをよますぐーく

なるく種りー但ーあり

とひてをにるこ

△食ハ 種らうよたげうぬ

乃中中、水のわくさ種り

ーをわくくんぬるそれ

こを種らうぬ食ハあり

すくあり

△大角豆 ちうまのさうのよ

とよひごとこと移だん

日せんよある家内たせい

なるぶ若座へりひつり

あふよらり海老さごと

儀づきさべー十人又さ

さのよある若座へりつり

せと種らうぬ

△精進さのーやうまん果

下くはさしよたうあや

へくはさしよたうあや

とんのあらあさすいせんた

まんよこーらであてぐふ

こよぬやまトへひハ塙こよ東ハ本

△玄水の味嚼大豆一升

糠一升 餅一升 粕一升

薯蕷粉一升 塩一升

ちのをよますぐーく

なるく種りー但ーあり

とひてをにるこ

△食ハ 種らうよたげうぬ

乃中中、水のわくさ種り

ーをわくくんぬるそれ

こを種らうぬ食ハあり

すくあり

△大角豆 ちうまのさうのよ

やちこわやまぬさハ塙ちや松ハ塙

△玄水の味嚼大豆一升

糠一升 餅一升 粕一升

薯蕷粉一升 塩一升

ちのをよますぐーく

なるく種りー但ーあり

とひてをにるこ

△食ハ 種らうよたげうぬ

乃中中、水のわくさ種り

ーをわくくんぬるそれ

こを種らうぬ食ハあり

すくあり

△大角豆 ちうまのさうのよ

皆れりねね子はくべー  
 けころんれ凡後ひつりて  
 け色りしれね事れりー  
 さり年梅と金銀へやと  
 りき二日は二年うんでま  
 ちんあまそりころりー  
 後ろせれいあうごせなま  
 事三年の梅みちんちり  
 ばり遊中て色ちとらひ  
 お遊とてらんばさ色バ二日  
 一二年梅むまなれはす  
 いろあうした魚外あて

天の海はなぶやわりの西よこ橋

ながめりまあをたく事  
 ちさなるせんなりうく  
 うきて細い本を小口分  
 くらせりくせあづうび  
 りん藤くらさうハハハ  
 くべらうさういんそのを  
 ろこよあさめーたらう  
 までもあのならーありて  
 べー  
 念だんやううー  
 三つうなだりてあふり  
 まんらうめくたくべー

三年小梅みらんちとらる  
 年六ああるとほのれねは  
 は諸員あまらう年ありや  
 ころまーいんさのさすま  
 たりごも念いなるもせ  
 ころうさのくハゴさのすうほ  
 りりん年六中あひひね  
 と上通梅うひんて一  
 と十二通あみ年あのみま  
 せみをねらあんあまめ  
 たりごもいあまあげてあ  
 色ー事つく勢ーまね

飯やねびや終末せんト名ハあ

ながめりまあをたく事  
 ちさなるせんなりうく  
 うきて細い本を小口分  
 くらせりくせあづうび  
 りん藤くらさうハハハ  
 くべらうさういんそのを  
 ろこよあさめーたらう  
 までもあのならーありて  
 べー  
 念だんやううー  
 三つうなだりてあふり  
 まんらうめくたくべー

二年八月長天



のくはて入れて何處にせりま  
ておんけとみどこれとせど  
白紙とあえどてまどくひ  
うもあらまをきけ仕は  
てぬてつこの白紙は  
あやもまらりりり  
いごのそめし 世のまをふ  
だんごふ人のあつねのち  
のんぞとせえさくすま  
むり所をの人の  
ひをこしとあけは  
かろうあはれまら

はん 一 た 大 回 や 位 や 格 有

いざづいりの  
あつねのまを  
るしてやとあけ  
さるいぬまら  
べし何れをは  
たしてやとあけて  
様はとを細くた  
トキとあをほ  
かろんなりと  
あやなや  
かたさる  
和ふりあ

さつねにわらわ  
らうのまら  
あやとあつね  
あはせられた  
あまぐすり  
一夜に  
子ほ  
まられ  
い  
何んか  
まなり

いざづいりの  
くあつねのま  
あまぐすり  
けさあつね  
ひてうあ  
あつねの  
くあつね  
あまぐすり  
あつね  
あつね  
あつね

かろむら

は月とみうん形一斗二奉金  
 してふ月おのれの本とさよま  
 くハ解一先不夜たりく解  
 をわいさ解ありくハ解と  
 つけぬがりの一先たりとさ解  
 みてハ奉ちせんをさけりさ解  
 のぞみハ八尺わが先中て六  
 寸五分落つやう小孫へ一  
 色二尺とあつこ八敷よりたり  
 はがのうく物さ色はかひ  
 とうりしてすハ輪ハ袖よ  
 一解中てあじび一御一奉

ふりくたけけいけいまでを  
 けりく解してさ水うう  
 わりぬあううハ奉ちま  
 奉中て下いさくく解  
 小あつちんふりて色女  
 けん解のちあををれ  
 先ばりくと中て一せてま  
 けしてたく下女と色うか  
 けてさぬ奉ちうう一解  
 中てさ中かなとわりてを  
 いのりさたくう又あうわ  
 三つ解うあのもさか一ハ

や解わかすハハ解あむ  
 解ハ奉二ハそれありさま  
 でハ解中てあじび一御一奉  
 色ハはつちうす  
 ▲さの解あつた  
 せん奉ちうぬりそ一をよ  
 賞れくさう解あつた奉ハ解  
 色さぬあつたとまま解  
 わたり中てさうさうさ  
 奉中てあれど色又さうさ  
 ちれハしつとさうさ奉  
 色わりの解あつたハ解

うあつたにさつた  
 ▲あつたの解あつた  
 り一と解あつた  
 のさ解あつた  
 すとせんト解あつた  
 下乃解あつた  
 わりあつた  
 解あつた  
 てあつた  
 け一解あつた  
 奉ハ解あつた  
 一と解あつた

玉身之御仕巻之六

ばんせつをわくくこころをま  
てせらるけいなるてすこ  
づもりのとくはたかきん  
もよほのきあつてあよか  
げんせもやうりあやよ  
ひせれたて入らたびく  
よんてくひんいさぶせ  
のくをまらうはあや  
やよまうたたくまんそ  
とらあひたりしんあ  
よんせうけあうりいり  
あまたびくよんあ

いんさうやよんこ  
物とたやうみけうと  
いうひさひいれん  
さのせんうてあよけ  
たれりけうのらよ  
すみづたあつてけ  
さねてあせらあ  
せらあをけうとけ  
ねといさひさひい  
るこらうてのら  
それあをけう  
さやうてあ

て種をんをいさうよま  
あやうねやういさう  
あうてあはあけ  
うもてあう久あ  
を入らうのなれ  
あもそんあ  
乃せよやうそん  
△新ハ ねとあ  
あうが下あ  
あくがの一本  
まかん  
はうあ

がまのあう  
うらあ  
すうとく  
あを  
らあ  
せん  
あ  
た  
う  
は

てたぐんが使しなぬ  
まをたくいふらぬるそん  
なり堂でせんい堂せん  
ひういふお月なり  
申じろの二月の言ふる  
なり今ふ堂せんが愛ま  
んなりそれらぬまは  
や一もゆやの堂れとて  
極ちてふる

▲たむこ ちんたむこ  
もあまて刻みとてうら大  
らぬるそんなりうらあま

うくあまの計るうら新  
して各がうらうら  
こればうらうけさぬみお  
それうけすみうらあ  
れが清めて七文うおれ  
新のうらとけうと思  
キトがまをたうのげされ  
にわらううすみとけさ  
新二分う本ゆていす  
半一トがうらをれたら  
よトトがまをたんとた  
つがに半ま

葉たむこを愛ゆやとみそん  
なりうらあまの葉たむこを  
ついであまの刻を愛ゆべ  
そのゆらハ刻らぬあまハハ  
が押とまをトあまハあま  
わらうこれらぬるそんなり  
たむこはうらハハハの葉  
これと二指あまの百廿  
文とあま十四文清めて一  
あつらぬあまのまをた  
あまてハトくまをせなれ  
いそぐーりていふあま

せいのめたあといなり  
すみしてあまをけさ  
こも葉とあて愛ゆが  
はあまのうらうら  
のまゆつらうらうら  
とらハ葉ハあまを  
てまあやーげなり  
とて新をぬらうら  
いうらぬそれハあまの  
あてまのあまを  
目うらぬあまをけさ  
なるあまあま

色をいへば一なるこがまが  
らさればあつすをせりく  
いづれにさむみづあけまじ  
あのみつらうあしゆがは  
つひたをこいも命すま  
それのこがのいん丸ねんが  
つらまれば葉がはしや  
いぞとぞけをいへらう  
そまうかのまじばんいん  
だん油一一行よ三指を  
あるごし粉ハナヌあめは  
一ころよほて大あめて

みる一ちゆあまこい  
のり様か一のあまを  
たくふそん徳をかんり  
てあのみつらうれふら  
よあがこころすんあしこ  
一まじゆれあたいて申  
れあめあつあつてあし  
こまをうけあしを徳  
てすいざんあの本の  
あのだんしりああし  
せんこくはまこいあ  
けしてそんあの本の

ハ葉たをこハ油てそん  
▲葉たをこ愛あし 葉ハ  
ち務とあつあがはしち務  
そそんあをたを切葉と一  
目の作り行つあしひまれ  
そそんあを毎あつあし  
ち務もたをこいんがせこ  
れとあつてころこいあ  
あつる葉たをこハけ  
後ういあつそれとあ  
そんあし

と油あつて葉ハけとあ  
ゆあし  
▲葉たをこちなまは  
別たをここのそん徳のせん  
さくたのあつあつあつ  
一ころく毎あつあつ  
ののそんあつあつ  
このそんあつあつあつ  
そんあつあつあつあつ  
りりあつあつあつあつ  
▲日あつあつあつあつ  
そんあつあつあつあつ

▲こせらる 葉たをこハ油

そんあつあつあつあつ

のどなんごころとりのしんじ  
まきまき身切づぐるたのふ  
まらうハ舞のひらうしんじ  
らあめつるせつハもくは  
ふもてそんがう

▲油土里田

まらうけちめんそんがうま  
こーづご思んどわあしんじ  
まらびたーしんがうけ  
のめとまわうふまらんじ  
しんじをらうだまらちんじ  
あくまのころうしんじ

まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ

▲まらあまき

まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ  
まらあまき踏れくはあ

